

## ●漁況情報

- 4月に入り各浜では春の訪れを感じさせるヒジキ漁が始まっています。みうら漁協諸磯支所では4月19日に口開けとなりました。同支所によると口開け時のヒジキは昨年よりも長く、成長がよいとのことでした。また、口開けの日は好天に恵まれ、昨年よりも収穫量が多かったようです。
- 4月4日、真鶴町漁協の大型定置網でサワラ12tのまとまった入網がありました。大型の個体も多かったようで、嬉しい大漁となりました。
- しらす船曳網漁業は、3月11日の解禁以来漁が低調となっています。神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は、NHKニュースの取材を受け、黒潮大蛇行が観測史上最長期間となったことと、解禁直後の時期の漁が3年ほど前から低調であることについての関連を指摘しました。ニュースは4月29日（金）に放送されました。

## ●浜の話題

- 4月4日、葉山町漁協では、地元ダイビングショップNANA、葉山の森保全センター、日本釣振興会、餌木等の釣り具メーカーであるヤマリアの協力の下、地先の適地にアオリイカ産卵礁を設置しました。産卵礁に用いる樹木は、葉山の森保全センターが森林保全のために伐採した樹木を束ねて用いて設置しました。葉山の取組みは、「海・山救う、アオリイカ産卵礁 水産資源と森の保全へ連携」として、4月5日の朝日新聞でも紹介されました。

朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/ASQ44752QQ44ULOB008.html>

昨年の産卵状況を紹介したダイビングショップNANAさんのYoutubeサイト

<https://www.youtube.com/watch?v=OPdbQvul1M8>

- 4月11日、小坪漁協所属 座間指導漁業士は、当センター栽培推進部が生産したアカモク種苗を用いて試験的に養殖しているアカモクを収穫しました。種苗を生産した栽培推進部研究員と確認したところ、種挿し時35mm前後だったアカモクは3m以上に大きく成長し、食べ頃の日安である生殖器も発達して収穫に適したサイズとなっておりました。相模湾側でアカモクの減少が著しい中、座間指導漁業士は、今後の養殖や増殖用のアカモク生産方法として期待を寄せております。なお、当日の様子は、4月12日の神奈川新聞誌面で紹介されました。

カナロコサイト <https://www.kanaloco.jp/news/government/article-903223.html>



養殖アカモク収穫風景



当センターで生産したアカモク種苗が大きく育ちました！

- 4月15日、鎌倉漁協で「鎌倉ハマグリ部会」の総会を開催しました。今年度は新たに3名の若手漁業者が同部会に加わり13名となりました。当日は、ハマグリしよれんの生態、昨年度の貝桁と鋤簾によるハマグリしよれんの分布状況調査結果とそれを踏まえた「ハマグリ資源管理・増殖指針」について普及員が説明し、同部会で積立てている放流歩金による種苗放流や、資源管理規定等について協議しました。



「鎌倉ハマグリ部会」総会の様子

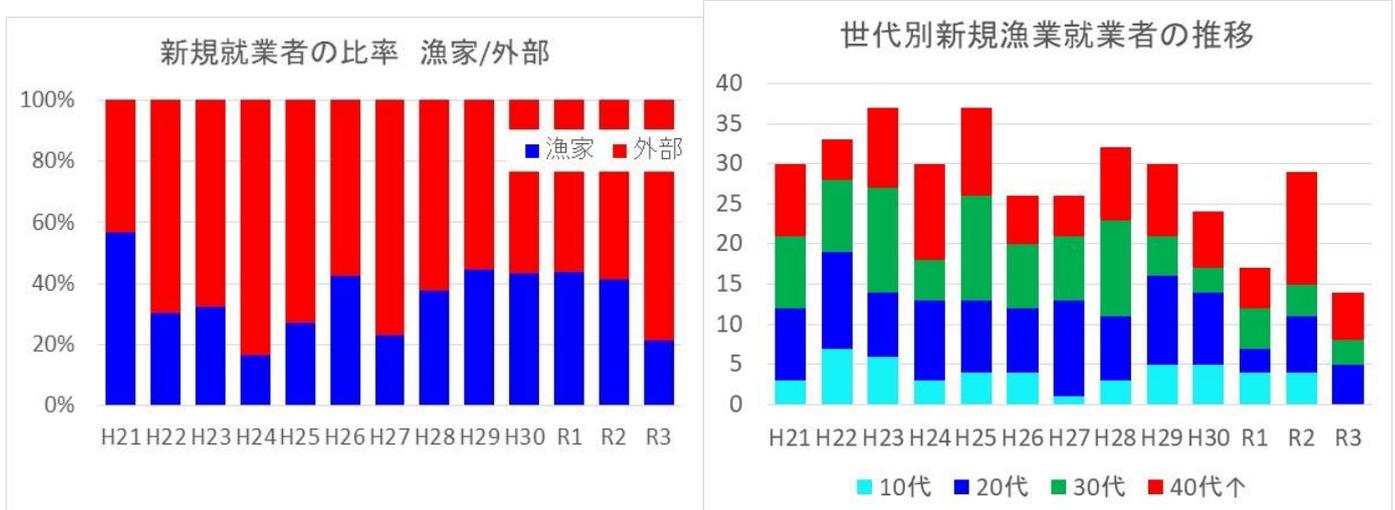
○ 4月19日、小坪漁協所属 座間指導漁業士は、小坪の天然ワカメのメカブを用いたワカメの種付けをしました。相模湾側では、養殖ワカメの種挿し後の11～12月にアイゴによる食害が酷く、その際にワカメ種苗を補填するため、昨年から取り組み始めました。また、9～10月の芽胞体形成期の種苗育成小屋が暗めだったので、屋根部の透明な波板を増やして、育成環境を改善しました。



水温を上げてメカブから遊走子の放出を促しているところ

○ 4月22日、県内の漁協の皆さまに調査協力頂いた、新規漁業就業・就労状況を集計しました。昨年度の県内の新規就業者は14名で前年(29名)比、半減しておりますが、漁業就業継続率は令和元年就業者が100%、令和2年が90%と比較的高く推移しております。また、漁家と漁業外からの新規参入者の比率を見ると、昨年度は漁家出身3名、漁業外からの参入11名で、漁業外からの新規参入者が多い傾向が伺えました。漁業参入志向のある方は、JF 県漁連の新規就業者募集情報や、お知らせの「漁業就業センター」の記事をご覧ください。

神奈川県内の漁業就業者募集情報 <http://www.kngyoren.jp/gyogyoushaboshu.html>



- 4月26日、横浜市のかながわ労働プラザで令和4年度漁業士会第1回役員会が開催されました。蒲谷新会長をはじめ11名の新役員が参加し、今年度の漁業士研修会の開催方針、水産技術センターへの要試験研究課題の要望などについて協議をしました。新しい委員の任期は令和6年の3月末までとなりますのでどうぞよろしくお願いいたします。
- 4月27日、横須賀市東部漁協 横須賀支所の武丸さんは、昨年から同漁協の走水大津支所の漁業者から指導を受け、スポットヒーターを用いてコンブを乾燥させています。この方法を導入することによって乾燥時間（2～3時間）を短縮できるとともに、天候に影響されることなく乾燥させることができるので、収穫から製品化までを計画的にできるようになったとの事でした。



スポットヒーターを用いて乾燥中のコンブ（乾燥中は前面のシャッターを閉めて行う）

- 4月29日、岩漁協所属の皆木青年漁業士が経営する株式会社岩ガキBASEが岩ガキ「鶴宝」を今年初出荷しました。出荷期間は7月中旬までを予定しているそうです。  
岩ガキBASE（真鶴町岩沖岩牡蠣養殖推進協議会）ホームページ <https://iwagakibase.com/>
- 藤沢市漁協は「湘南はまぐり」について、テレビ朝日「食彩の王国」の取材を受け、貝桁網漁業による操業とその資源管理の取り組みを紹介しました。番組は5月7日（土）に放送されました。  
「食彩の王国」掲載サイト <https://www.tv-asahi.co.jp/syokusai/backnumber/0875/>
- 神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は、「湘南しらす」について、NHK「おいしい東京」（NHKワールド JAPAN 英語版を日本語化した番組）の取材を受け、しらす船曳網漁業による操業と漁獲物をきわめて高鮮度で取り扱っていることについて紹介しました。番組は5月6日（金）に放送されました。

## ●お知らせ

今年も、JF 神奈川県漁連は県の委託事業で「かながわ漁業就業促進センター」を8月に開校します。このセンターでは、8月から翌1月にかけて、漁業に関する座学研修や、県下の漁業者の下での漁業実習を通じて、神奈川県での漁業就業を支援するものです。受講料は無料で、小型船舶免許や海上無線免許の取得支援制度もございます。受講をご希望の方は、7月31日（日）までに神奈川県漁業協同組合連合会あてに申込書類をメールまたは郵送でお送りください。

○申込書類、その他詳細はこちらをご覧ください。

<かながわ漁業就業促進センター／県水産課 HP>

募集期間：令和4年5月10日（火）～7月31日（日）

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/kanagawagyogyoshugyo.html>

○お問合せ・申込先 神奈川県漁業協同組合連合会 指導部

研修期間：令和4年8月5日（金）～令和5年1月末ごろ

TEL : 045-773-8877 MAIL : [info@jf-kanagawa.jp](mailto:info@jf-kanagawa.jp)



同センター第1期修了生（左2枚）と第2期修了生（右）柴と小坪の漁業者の下で活躍されています！

同センター第1期修了生 緒川さんの朝日新聞掲載記事

朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/photo/AS20220211002666.html>